

令和5年度 松井小学校 学校評価シート

学校教育目標			本年度の重点目標			令和5年度 学校満足度(保護者)		
いのちと人権を大切にし、こころ豊かでたくましく生きる児童の育成			1 深い学びへとつながる対話的な授業の創造 2 笑顔であいさつができる子の育成 3 自分も相手も大切にする 思いやりの心あふれる子の育成			学校満足度：3.58（4段階評価）		
学校自己評価【A:達成している(3.2以上) B:おおむね達成している(2.8以上) C:あまり達成していない(2.4以上) D:達成していない(2.4未満)】							学校関係者評価	
観点	項目	取組(達成)の状況	評価	総合評価	課題と改善方策	学校自己評価及び改善方策の適正さの評価		
確かな学力の育成	学習規律の徹底	家庭学習習慣の定着に向けて、学年ごとに宿題の量が違っていたのを統一した。また、年4回の家庭学習強化週間を廃止し、点検表記入を毎日行うように変更した。教員の資質向上に向け、年間23回の校内研修を実施した。読書活動推進には、3年生以上にも図書室活用の授業を導入し、図書館アドバイザーやお話しサークル、図書ボランティアによる読み聞かせ会等を開催するなど学校あげて強化に取り組んだ。	3.4	A	昨年度の全国学力学習状況調査の結果より、問題を読み取る力が弱いことが判明したため、今年度新たに朝学習に読解カトレーニングを取り入れた。計算のケアレスミス対策へは、R4年度途中から算数授業の冒頭5分間にミニ計算練習を取り入れ、簡単な計算の繰り返しをさせている。今年度の全国学力学習状況調査では、全国平均を上回る結果を残し、12月の全国規模の学力調査では学校全体の傾向として学力向上が見られているので、改善策を継続して取り組んでいく。ただ、保護者アンケート結果から、家庭学習時間や読書時間が少ないことは、解消されていない。	読む力は大切です。すべての基礎となる力ですので、その強化については不可欠だと考えます。引き続き、読解カトレーニングや読書活動の推進に努めていただきたい。		
	基礎学力の向上の取組		3.8					
	よりよい授業の展開		3.4					
	家庭学習習慣の定着		3.1					
	読書活動の充実		3.5					
豊かな心の育成	道徳実践力の育成	毎月いのちと人権の集会では、いろいろな職員による人権講話を実施している。あいさつの活性化に向けては、児童の有志によるあいさつがんばり隊を結成して活動を展開した。学校運営協議会では、あいさつ運動を校内でとどまらず校区内に広げる発案があり、PRチラシ配布や運営協議会委員による朝のあいさつ当番活動を実施した。	3.5	A	今年度、校内でのあいさつ活動が活発に展開されたことが、仲間づくりにおいても役立っている。6年生をリーダーとする縦割り班活動を増やしたことも加わって、学年を越えて仲がよい集団をつくることができている。今年度の生活指導上の問題行動件数も減少している。また、教職員評価から、教育活動全般を通して児童の道徳・人権意識を高める指導に力を入れたことも見て取れる。引き続き思いやりの心の育成に努めていく。	校門でのあいさつ当番活動では、子どもたちの元気なあいさつを聞くことができた。ただ、登校途中の地域の中でも、同じようにしっかりとあいさつできているのかと心配します。地域あげてのあいさつ運動に発展していくように継続していきましょう。		
	教育活動全体を通した指導		3.7					
	道徳実践の表出		3.2					
	あいさつ運動の取組		3.3					
健やかな体の育成 (体育)	基本的生活習慣の定着	体育授業はもちろんのこと、運動会、マラソン大会やかけ足訓練、縄跳び運動週間では、テーマや目標をしっかりと意識させることで体力・運動能力向上を図った。小学生陸上大会や駅伝大会にも意欲的に挑戦する児童が増えている。	3.5	A	スポーツクラブ等で運動をよくする児童と運動をしない児童との運動能力差が拡大してきている。また、運動能力調査では、男女とも握力、50m走、ボール投げにおいて課題があることが分かった。体育の授業を中心に運動することの大切さを伝えていきたい。プール水泳は、町施設を利用することで、天候に左右されないよう時間確保していく。	プール水泳の町施設の利用については、授業時数確保や経費削減につながるので、その方向でいいと思います。ただ、町施設では着衣泳ができないことが残念です。他の学校のプールを借りてでも、着衣泳は実施してほしいと思います。		
	体育の授業を通した体力・運動能力の向上		3.6					
	体育的活動や行事を通した体力・運動能力の向上		3.5					
健やかな体の育成 (保健)	適切なケガの処置や対応	伝染病の拡大が予想される時は、迅速に学校医や教育委員会と連携して引き渡し下校や学級閉鎖の判断ができた。ケガが発生した際は養護教諭を中心に関係する教職員の組織的な対応ができており、速やかに保護者や救急搬送により病院につなぐことができています。給食センターの残食調査では、町内で一番残食が少ない学校となっている。	3.8	A	校内でのケガ防止のために、廊下を走らない等の生活のルールや約束指導をしっかりとすることができている。学校医の助言から「便育(排便)」をすべきとの指摘があったので、便についての校内掲示をつくり、便の状態による自身の体調管理を推進した。食育の充実のために給食センターから栄養教諭を招聘した教育活動を展開することができている。学校健診で要受診とされた児童の受診率を上げるために、保護者への呼びかけを強化していく。	保護者負担の観点から、給食エプロンのアイロンがけは、任意であることを周知するほうがよいのではないかと思います。柔軟剤の強い香りが気になります。		
	適切な給食指導		3.7					
	適切な食育指導		3.4					
	健康増進のための家庭への呼びかけ		3.5					
学級経営の充実	学級経営案を生かした学級経営	学級経営案を作成し、低・中・高学年に分かれて定期的に検討することで、好ましい学級集団の形成に努めている。年2回のストレスチェックに基づく全員面談や日頃からの児童観察により、丁寧に児童理解・実態把握に努めている。	3.8	A	全国学力・学習状況調査の「先生はあなたのよいところを認めてくれているか」に肯定的な回答をした児童が91.3%であることから、学校がよい居場所になっていると考えられるが、「困りごとを先生や学校にいる大人に相談できる」と回答した児童が、56.5%と低調であった。しっかりと児童の話を傾聴することを徹底する必要がある。	高学年になればなるほど大人には相談しなくなることで、悩み事を抱えていない場合があることを考えると、心配する数字ではないと考えます。それよりも認めてもらっているという91%に驚きました。		
	好ましい学級集団の形成		3.3					
	児童理解・実態把握		4.0					
いじめに対する 取組・指導	いじめの未然防止・早期発見	年度当初に、いじめの定義や初期対応の重要性を職員研修で共通理解を図った。また、いじめアンケート(学校生活相談シート)を児童用を年間5回、保護者用を年間3回実施して、いじめの未然防止・早期発見に努めた。さらに、問題行動発生時には、組織的にかつ迅速に対応したことにより、大きな問題に発展することがなかった。	3.9	A	保護者評価の結果から、「学校は児童理解・実態把握に努めている」、「学校は事案に対して適切な対応をとっている」で共に3.3(4段階)、「子どもの気になることを学校に相談している」で3.2(4段階)であった。この評価をさらに改善していくために、担任と児童との関係が保護者との関係に比例することを認識して学級経営に当たるとともに、当事者から意見を十分聞き取り、よりよいいじめに対応していく必要がある。	80%も肯定的な回答をしてもらっているので、学校が気にされるほどの数字ではないと思います。今後もいじめ未然防止・早期発見に努めてほしいです。LINEやSNS上などでは、言葉がきつくなることも多くあるので、しっかり見守っていくことが大切です。		
	適切な指導		3.5					
	いじめをしない心情・態度の育成		3.5					
	いじめを許さない心情・態度の育成		3.5					
特別支援教育の充実	保護者との共通理解	個別の指導計画や支援計画が適切に立てられており、特別支援教育活動を推進するにあたって、保護者と十分な共通理解を図ることや、合理的配慮の適切な実施ができている。	3.7	A	特別支援学級に在籍する児童の交流学習や共同学習は、障害のある児童、障害のない児童の相互のふれ合いを通じて人間性を育むことに役立っている。次年度も障害特性を理解する時間を設けながら、児童同士のトラブルを予防していく。さらに、すべての教室においてユニバーサルデザインを意識した教科指導や生活指導を展開する。	大きなモニターに情報が映し出されるので、とても分かりやすい。交流学級との関わりを大切にされていることはとてもいいことだと思います。		
	個別の指導・支援計画と合理的配慮の適切な実施		3.6					
	目的に沿った交流学習の展開		3.5					
防災・安全教育の 充実	適切な防災・安全指導	交通安全教室は、学校周辺の道路にて保護者の協力を得ながら、交通事故防止に有効な取組となった。避難訓練は、水害、火災、地震の3種を想定した訓練を通じ、自分の命は自分で守る意識の醸成に役立っている。校内安全点検も確実に実施できている。	3.7	A	交通安全教室は、生活道路にて開催することが児童にとってより事故防止につながるため、この取組を継続していく。学期に1回の避難訓練では、災害によって避難の仕方を考えさせる今の取組を継続する。	災害対策には、訓練がとても大切です。子どもが自分で考えるという避難訓練を継続してほしい。		
	安全な生活習慣の定着		3.5					
	校内安全点検の実施		3.6					
キャリア教育の推進	身につけさせたい能力・技能を意識した指導	異学年交流の機会を増やして、社会性の向上とともに上級生のリーダー性を高めるよう取り組んだ。学級や児童会、委員会活動に役割意識を持たせ、自己有用感の醸成に努めた。	3.8	A	学習や活動のめあてをしっかりと児童に示して実行に移せている。さらに、事後評価はできたことをしっかりと認め、次の活動へ拍車がかかるように取り組めている。このサイクルを継続していく。	評価及び改善方法は適正である。		
	役割や責任を持たせた適切な指導		3.7					
ふるさと多可町を愛する 子どもの育成	ふるさと教育の推進	生活科や総合的な学習の時間を中心に、ふるさと多可町を知る学習を展開した。社会科では、多可町オリジナルの社会科副読本を活用して授業を実施できている。杉原紙を使った木版画づくりや杉原紙卒業証書づくりにも取り組んだ。	2.9	B	各教科・領域のそれぞれの学習で多可町についての内容を扱っていたり、児童に地域行事に参加するよう呼びかけたりして多可町を愛する児童の育成に努めている。さらに、令和6年に地教委が作成した「多可町ふるさと教育ガイドライン」に照らし合わせながら取組を進めていく。また、那珂ふれあい館の活用を推進していく。	ふるさとが好きな子どもたちが十分育っていると思います。わざわざ取り立てて、ふるさと学習を行う必要があるのかと疑問に思います。		
環境美化	児童の美化意識の向上	掃除活動は、教員や児童会委員会の働きかけで、時間いっぱい掃除を実施している。概ね熱心に掃除活動ができている。校内の環境美化は職員作業やボランティア作業で取り組めた。	3.2	A	校内はよく掃除が行き届いているが、児童数の減少から掃除をする場所の検討が必要である。	掃除機等の便利なものは取り入れればいいと思いますが、家庭でほうきとちりとりを使うことがなくなってきたので、学校ではぜひ、ほうきとちりとりを使わせてほしいです。		
	校内の環境美化		3.3					
組織力・チーム力の 向上	学校経営方針の周知と同一方向への推進	教育活動を進めるに当たって、職員会議や職員打合せ、校務支援システムの掲示板により教職員の共通理解を図って推進できている。	3.8	A	教育活動や行事の運営について教職員の中で意見交流・情報共有して取組を進めることで、組織力を高めることができている。	評価及び改善方法は適正である。		
	全教職員の共通理解のもと教育活動の推進		3.6					
開かれた学校・信頼さ れる学校づくり	学校情報の発信	学校だよりの毎月発行、ホームページの週3回以上の更新、学校メールにより情報発信に努めた。児童に関する情報は、即日に保護者連絡を入れている。保護者からの要望にも、素早い対応を心がけた。	4.0	A	今年度、学校運営協議会の発案で、校内あいさつ強化運動を松井小校区へ広げる取組を行った。しかし、地域(児童のいない家庭)への情報発信や周知について難しさを感じた。校区内あいさつ運動の実現に向けて、長期スパンで継続していく必要がある。	地域への情報発信に、たかTVの文字放送を活用してみてもどうかと思います。		
	保護者への連絡		3.8					
	保護者・地域の要望への適切な対応		3.9					
教職員の資質向上	よりよい授業づくりのための教材研究	教員は全員、授業公開をして授業力向上に努めている。また、年間23回の校内研修は、指導に役立つ内容を多岐にわたり扱った。	3.9	A	教員の授業力向上のために、多可町授業づくり10ポイントの実施やOJT・職員研修に努めていく。校内研修には、大学からの外部講師を招聘して研修を深めていく。	評価及び改善方法は適正である。		
	指導力向上に役立つ研修内容		4.0					
教職員の心身の健康 保持	勤務の適正化と定時退勤日の実施	毎週木曜を定時退勤日とし、その実施率は90%台となっている。お互いの業務に協力的であり声かけも活発に交わされているため、職員室は風通しのよい雰囲気を保っている。	3.7	A	情報を共有することが働きやすい職場づくりに直結するので、短時間勤務職員等も含め教職員間で情報をオープンにしていく。また、業務改善できる部分の見直しを推進していく。	松井小学校から病気休暇に入る教職員が出なくて安心しました。		
	適正な校務分掌の振り分けと協働体制		3.5					
	何でも話し合える職員室の雰囲気づくり		3.8					

※評価の数値は、教職員の4段階評価(4・3・2・1)の平均値を表示している。